

令和7年度

仁愛大学データサイエンスプログラム

自己点検評価報告書

令和8年3月

仁愛大学  
教育課程委員会

令和7年度の「仁愛大学データサイエンスプログラム」（以下、「本プログラム」という。）について、教育課程委員会において次のとおり自己点検・評価を行った。

### 1. プログラムの履修・修得状況

令和7(2025)年度入学の1年生を対象として、本プログラムを構成する授業科目「情報基礎」・「データサイエンス基礎」の履修状況、および単位修得状況の把握・分析を実施した。

「情報基礎」は必修科目であるため、1年生全員が履修し、単位の修得率は全体で94.1%であった。

「データサイエンス基礎」は1年生全体で71.5%の者が履修を行い、履修者に対する修得率は91.8%であったが、1年生全体に対する修得率は65.7%であった。

2科目と単位修得した本プログラムの修了者は、全1年生の64.4%ということとなった。

情報基礎（必修科目）

	(A)在籍者数 ※1	(B)履修者	履修率 (B)/(A)	(C)修得者	履修者の 修得率 (C)/(B)	在籍者の 修得率 (C)/(A)
心理学科	73	73	100%	68	93.1%	93.1%
コミュニケーション学科	62	62	100%	59	95.1%	95.1%
健康栄養学科	55	55	100%	51	92.7%	92.7%
子ども教育学科	51	51	100%	49	96.0%	96.0%
合計	241	241	100%	227	94.1%	94.1%

※1…学生数は5月1日付

データサイエンス基礎

	(A)在籍者数 ※1	(B)履修者	履修率 (B)/(A)	(C)修得者	履修者の 修得率 (C)/(B)	在籍者の 修得率 (C)/(A)
心理学科	72	70	97.2%	59	84.3%	81.9%
コミュニケーション学科	61	55	90.2%	54	98.2%	88.5%
健康栄養学科	55	33	60.0%	31	93.9%	56.4%
子ども教育学科	51	13	25.5%	13	100.0%	25.5%
合計	239	171	71.5%	157	91.8%	65.7%

(1年次終了時点) 本プログラム修了者（上記2科目修得者）

	(A)学生数 ※2	(B)2科目修得者	プログラム修得率 (B)/(A)
心理学科	72	58	80.6%
コミュニケーション学科	61	53	86.9%
健康栄養学科	55	31	56.4%
子ども教育学科	51	12	23.5%
合計	239	154	64.4%

※2…学生数は9月26日付

### 2. 学修成果

本プログラムを構成する科目の授業評価、アンケート等を分析することで全体的な学修成果を把握し、これらの結果を本プログラムの改善に活用している。

授業評価にあっては、各学期中に実施する「中間授業評価」によって学生からの授業への改善要望を把握している。また、各学期末には「学期末授業評価」を実施し、授業の内容、方法及び総合評価を実施しており、各授業の全体的な理解度を把握している。また「データサイエンス基礎」の授業内において、受講者全員に対して独自アンケートを実施しデータの活用に関する意見などを聴取し、これらの分析結果に基づいて、本プログラムの評価・改善を行っている。

「データサイエンス基礎」にて行った学期末授業評価において、設問15.「授業における総合評価」に対して、「① 全くそうでない」、「② ややそうでない」、「③ どちらともいえない」、「④ ややそのとおり」、「⑤ 全くそのとおり」の選択肢で回答を求めたところ、すべてのクラス（4学科で計7クラス）の平均が5点満点中、4.2程度と高い満足度が示されている。

また「データサイエンス基礎」の第14回又は第15回において、受講者全員に対して本プログラムに関する独自のアンケートを実施。「このプログラムを通して、「AI」や「データサイエンス」のイメージは変わりましたか？ 授業を受けての感想なども自由に書いてください」との設問の結果、「難しいイメージがあったけれどデータを知り分析し実践することで、データひとつで様々なことが分かることが面白いと感じ、イメージが変わりました。」、「AIが広く使われている時代になっているからこそ、AIの使い方やどのような役割を果たすのか改めて理解することができた。」等、データサイエンスに対する意識や実践力の向上や、現代におけるAIの担う役割や活用方法に対する関心が高まっていることがわかる。

また、収集したデータの分析・検討結果に基づいて、本プログラムの評価・改善を行い、課題を明確化することで、本プログラムの質を向上させ、授業改善に役立てるとともに、学生の学修効果をさらに高めることを目指す。

### 3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

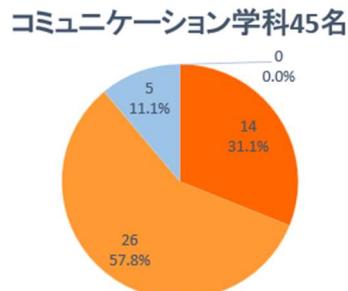
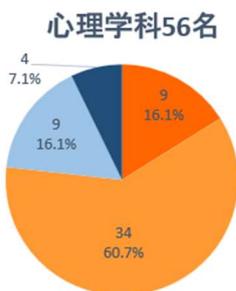
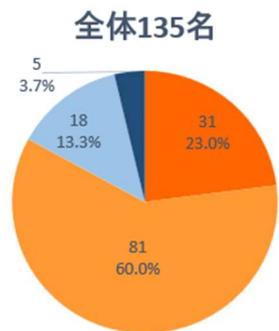
本プログラム受講者に対して、アンケートを実施し理解度を分析している。「このプログラムを通して、データの取り扱い方や読み取り方、AIの活用方法等、データサイエンスの基礎に関して、理解できましたか？」というアンケート設問では、「理解できた」23.0%、「どちらかといえば、理解できた」60.0%、「どちらかといえば、理解できなかった」13.3%、「理解できなかった」3.7%と、全体的に理解度は高い。

しかし、「どちらかといえば、理解できなかった」・「理解できなかった」の回答もわずかだが見られることから、興味・関心が薄い学生層に対する動機付けや理解度の向上のため、引き続き受講生の傾向を把握し、授業内容の工夫や難易度の設定が必要であることが考えられる。

また、急速に発達したデータサイエンスやAIに関する技術などについて扱い、学生のニーズを踏まえながら学修意欲を喚起し、本プログラムの質を向上させる取り組みを継続することで、今後の更なる理解度の向上を目指したい。

#### ● 全体・学科毎の回答

- 理解できた
- どちらかといえば、理解できた
- どちらかといえば、理解できなかった
- 理解できなかった



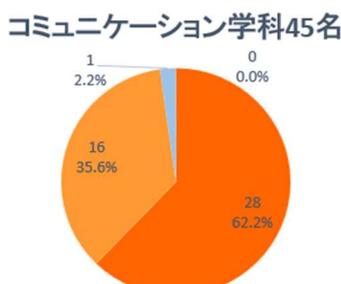
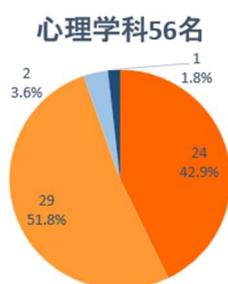
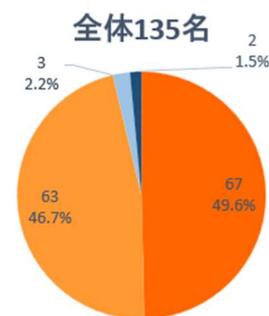
### 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラムアンケート内「全国の学生にデータサイエンスの学びが求められる現在、このプログラムを後輩にも推奨しますか」という設問に対し、「推奨します。」49.6%、「どちらかといえば、推奨します。」46.7%、「どちらかといえば、推奨しません。」2.2%、「推奨しません。」1.5%と、全体的に推奨度は高く、一定の評価が得られたと判断できる。ただ、「3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度」の結果や、心理学科や子ども教育学科では、「推奨しません」という回答があったことや、「推奨

します」との回答が他学科に比べ低くなっていることから、学科別に理解度・満足度が異なっていることが考えられるため、担当教員間でアンケート結果や授業内容について共有し、全学的に推奨度の向上を目指す。

### ● 全体・学科毎の回答

- 推奨します
- どちらかといえば、推奨します
- どちらかといえば、推奨しません
- 推奨しません



## 5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

履修率向上に向けた取り組みとして、学務課から、履修年次である1年生の前期及び後期のガイダンスにおいて資料を用いて説明を行い、本プログラムの修了を推奨している。また、各授業担当者から、1年次前期に開講される卒業必修科目「情報基礎」において、後期に開講される「データサイエンス基礎」の履修を喚起し、本プログラムの修了を推奨している。

今年度のプログラム修了率は64.4%となっており、昨年度と比較して増加している（昨年度63.0%）。学生にも本プログラムが浸透してきているものと分析し、引き続き修了生の増加を目指す。

このほか、本プログラムを開始した令和6年度以降、本学附属図書館においてデータサイエンス等の関連書籍の充実を図り、学生の同分野に対する関心の向上や、自主的に学習できる体制を整備している。

なお、本プログラムの到達目標や修了要件、構成する科目を、本学Webページに公開しており、いつでも閲覧できるようにしている。（公開先URL：<https://www.jindai.ac.jp/datascience/>）

## 6. プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

現時点において本プログラムの修了者は全員在学中であり、進路は決定していない。

本プログラムは初年次に配置しているものの、各学科で学ぶ統計・データ等を扱う専門科目に繋がる基礎的内容であると言える。そのため、各学科での専門分野を学び就職する先においても、本プログラムで学んだ知識・スキルが活かせるものと考えている。

## 7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本プログラムを修了した卒業生を現時点で輩出していないため、今後、キャリア支援センターとも連携し、就職先の企業へのアンケート等を通じて情報収集に努めていくとともに、本プログラム改善に向けて検討していきたい。

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム北信越ブロックに連携校として加盟しており、コンソーシアムで開催されているイベントや研修会での民間企業・団体の声を参考に、本プログラムを構築し、点検・評価できるようにしている。

## **8. 数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることについて**

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムを参考に、身近な社会における実例を授業で紹介することで、学ぶ意義や楽しさを理解させることに努めた。また、授業アンケート結果を分析し授業の工夫・改善を行っている。

## **9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすることについて**

授業の内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業を実現するために、受講後のアンケートや授業評価の結果を教育課程委員会で分析し、授業担当者にフィードバックすることで、学生が理解しやすく興味を持てる授業への改善を行っている。

本プログラム構成科目は4学科で計7～8クラスに人数を分けてコンピュータ室で実施している。コンピュータ室は3部屋、パソコンは計164台と受講者に対して十分な数を配備している。また令和6年度に部屋全てのパソコン機器の更新を行っており適切な設備環境のもと授業を実施している。